



リュウキュウ藍を 育てて染める

令和元年5月分

はじめに

5月の風が緑を鮮やかに染めてさわやかな時節を過ごしています。庭に干した染め布がはたはたと喜びの舞を舞っているようです。災害に負けず、人も草もはばたけることを祈ります。

いかがでしょうか。地方によって苗の大きさもずいぶん違うと思いますが、うまく定植できましたか。藍は暖かいところに育つ草なので、南国だと大分大きく育てているかもしれません。寒い地方では、まだ定植が出来ない方もあるかもしれません。藍は成長が早いので、暖かい地方では3回収穫が出来ます。約1月で刈り取りますから7、8、9月と刈ることが出来ます。寒い地方では、1回しか刈れませんが、暖かくなってから種まきをして8月に取れるような考え方をすると、今から種を蒔いても収穫できるわけです。しかし、芽が出なかったり、大きくならないなどの問題がありましたら申し出てください。送料着払いで苗をお送りすることもできます。

今回お送りしたリュウキュウ藍も、植えかえると大きく育ちます。ただし、日照りの強い畑に植えると葉がちぢれてきます。梅雨が明けたら寒冷紗等で日陰を作ってください。育ったら大きな葉からちぎって使います。草丈が大きくなれば、茎を切ってさし木をし、たくさん葉を殖やしてください。

この藍は、ジュースにするとタデ藍より緑がかった色になります。水に2、3日浸けてそのまま染めたり、沈殿藍を作ったり、また後で紹介します紫の染めに使うのに適しています。

リュウキュウ藍

今回はリュウキュウ藍について取り上げます。

20年も前になるでしょうか。徳島のデパートの一角で、沖縄の染め作家による藍染めの展示会があり見に行きました。そのころ草木染めに取り組んでいたので興味があったからです。何十点か並べられた藍色の染め物の中に紫がかかった色を見つけ、「これは藍で染めたのですか？」と尋ねました。展示場の一角に鉢植えがあり、何本かの草が植えられており、「このリュウキュウ藍を煮て染めたのです」との説明がありました。その草を分けていただきたいとの私の願いを聞き入れてくださり、展示会の最終日に1本いただいたのが私とリュウキュウ藍の出会い、ひいてはタデ藍による七色染めの始まりでした。

その後、この草は冬になる毎に枯れかけ、春にまた新芽を出すと、数年かけまして私の庭の片隅で少しずつ殖えておりました。また、友人が沖縄から何本か持ち帰ってくれ、育て方や染め方を教わって来て、教えていただくことができました。そして、「日陰の湿気の多いところが育ちよい」と植えてくれたのが、数年来大きく根付くようになりました。

今回皆さんにお送りします苗も、それをさし木で殖やしたものです。昨年さし木したもので、大きくなっていますので一本送ります。すぐに大きめの鉢か土に植えかえてください。注意点に気をつけて育てていただくと、どんどん大きくなり、高さ50cmくらい、まわりも50～60cmくらいになりますから、広い場所が入用です。鉢植えの場合は、大きくて深めのものを用意するとよいでしょう。またリュウキュウ藍は強い日差しに弱いので、鉢を日陰に置いたり、土に植える場合は梅雨が明けたら寒冷沙等で日陰を作らねばなりません。

根に当たらないように野菜用の肥料を時々与えてください。タデ藍よりも虫に強いようです。葉の色が濃い緑色をしたものが良く、葉っぱがくるまるようになるのは日光が強過ぎる等の原因があることがわかりました。

葉がどんどん大きくなると上の方を刈り取るか、ハサミで切り、葉のみを使います。年3回くらい、葉を取り染めることができます。茎は染まりませんので、さし木に使います。

梅雨の頃に枝を切ってさし木をしてください（【さし木の仕方】参照）。上や横に出た枝を切ってさします。鉢植えや日陰の土に植えて、水をたっぷりやりながら根付くのを待ってください。

土は鹿沼や赤玉等が混ざったものが水はけが良いようです。特にさし木をする時は、鹿沼の細かいものが早く根付きます。こうして殖やして、たくさんの苗を取ることができましたので、数年前からこの講座のカリキュラムに加えています。

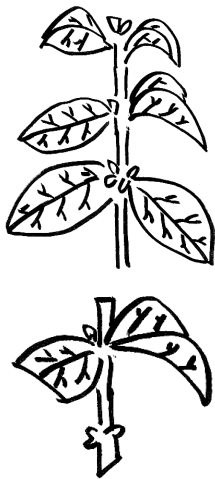
この草は、東南アジア、中国、沖縄等の暖かい地方に育つ植物ですので、日本では霜の降りる場所ではビニルハウスや家の中で育てる必要があります。でもタデ藍のように毎年種を蒔いて育てる一年草と違って、多年草ですからうまく育てれば冬も染めることができるわけです。本来この草は沈殿藍を作って泥藍にし、アルカリ剤を加えて藍分を溶け出させ、還元剤で藍建てをして染めるものです。十数年来この草の染めと取り組んでみましたところ、タデ藍に加えてもっと数多くの色を染め出すことが分かりました。

今回の講座では、その染め方も解説していきますので、まずはたくさん殖やしていただきたいのです。

さし木その他、取り木もできます。下の方の枝を土の中に埋めるようにまげて、その上に土をかけ、土を叩きつけて水をかけ、そこから根をおろさせる方法です。

このようにして、たくさんの葉を取っていただきたいと思います。

さし木の仕方



①さし木の株を作る

なるべく今年芽を吹いた新芽（ただし、固く充実したもの）の部分を10cm程カッターやハサミでカットします。（斜め切りでも水平切りでも良い）

根は葉の付け根からが一番出やすいので、葉の付け根あたりで茎を切り、その葉を落とします。その上の葉は大きければ半分に切り、1～2根残します。

②カットした株を水揚げさせるため30分程水につけておくと良いでしょう。発根促進剤（メネデル）をその水に薄めてつけると発根がよくなります。

③用土 さし木用に市販されている粒の細かい鹿沼土を使います。（肥料は一切与えてはいけません。）

④苗を土に差し込む前に、土にしっかり水やりをし、木の枝で土に穴をあけ、そこに苗を差し込みます。土をかけてしかりおさえます。

⑤水やりは、土が乾かないよう1日1～2回で、直射日光は避けます。

先に根がはって芽が出ます。葉が出てくれば1ヵ月くらいで鉢か土地に植えかえてください。こうして殖やしてください。私は昨年11月から今年4月にかけて100本殖やしました。

リュウキュウ藍の染め

夏の強い太陽に弱い草なので、2ヶ月くらい寒冷紗で覆って日よけにします。土地に植える場合は、木の下に植えると大きく茂ります。時々肥料をあげてください。また反対に、寒さにも弱いのでビニールのトンネルハウスも必要です。

雨とやわらかい日差しを受けて大きく育ちましたら、霜が降りる頃まで、染めてはさし木を楽しんで下さい。いくつか技法を紹介します。

●ジュースの青染め（生葉ジュース）

氷水と葉をミキサーにかけます。手早く網で絞り、その液の中で糸や布を染めます。絹や毛はそのままで染まりますが、木綿や麻は液を藍建てします。ソーダ灰や石灰でアルカリ性にした液を、ブドウ糖やハイドロで還元させて染め液を作り、あらかじめ濡らしておいた糸や布を染めます。

●生葉の煮染め（生葉煮染め）

葉と水を鍋に入れて煮出します。はじめは液の色が水色、灰色と変化します。沸騰しますとだんだん紫色に変わってきます。その液に布や糸を浸して染めると、青みの紫色が染められます。また、葉を水の中に入れ何日か漬けておき、その汁を煮出しながら染めると、赤紫を染めることも出来ます。

●湯漬け法で染める（ビニール法醗酵）（醗酵煮染め）

藍の葉を取っておきます。鍋に湯を沸かしミョウバンを溶かします。耐熱ビニールの袋に糸や布を入れ、まわりに葉を詰め込みます。その中に液を流し入れ、液が流れ出さないよう袋の口を留めて何日かおきます。ナイロン・絹・毛・麻・綿それぞれ染めることができます。この方法でミョウバンを塩に換えますと、また違った色の染めを楽しめます。さらに液の温度、気温、保存する場所によって、赤紫から黄緑の混じった色を染めることも出来ます。

●乾燥葉の煮出し染め

水に葉を入れ30分くらい煮出します。糸や布を入れ15～20分染めます。酢酸アルミ焙煎、石灰焙煎、灰汁焙煎で黄色を染めることが出来ます。

リュウキュウ藍の沈澱

南の島の植物なのに、寒い土地でも育てられるという、うれしい結果が出てきています。本来のリュウキュウ藍の本流に、たくさんさし木をして葉を殖やした方は、沈澱藍を取ってみましょう。

①大きい葉のみを500g取ります。

②漬物用桶等を利用してさっと洗った後、水に漬けます。

水1ℓを入れ、重石をしておきます。夏で3～4日、秋で6～7日おきます。途中で裏返すようにします。

③表面に緑紫色の膜が張り、泡が出来たら葉を取り出して漉します。

④この液に消石灰を30g入れ、しゃもじで混ぜます。

300回～400回くらいすくい上げるように混ぜると青い泡が出て、液の色が緑から青に変わってきます。

⑤その液を透明のグラスに取って置くと沈澱物が見られます。

そうすると出来上がりです。上澄みの液を捨て、沈澱物を取っておきます。

リュウキュウ藍で引き染め用の顔料を取る

さて、今回私は、リュウキュウ藍で作った沈澱藍を使って引き染めをするために他の色も作ってみようといくつか試みをいたしました。引き染め用の顔料の取り方は、リュウキュウ藍の葉(50枚～100枚)に水1ℓを入れ、30分煮て、1日置きます。ステン鍋、鉄鍋、銅鍋、アルミ鍋等、使用する鍋の材質を変えて試してもよいです。いろいろ作って、更紗や引き染め、色ざし等に使ってみましょう。

沈澱した液に水を加え、2, 3回上澄みを捨て、濃い液を取ります。次に乾燥させ、にかわを加えると、ペースト状の顔料が取れます。これは引染めに使えます。また乾かすと藍棒ができます。

【同封したもの】

●リュウキュウ藍の苗 1本

●写真資料 1枚 (A4用紙に、写真①、②を印刷)

※まだ先の話ですが、11月のテキストに、浸染めの技法についての、カリキュラムがあります。それまでにリュウキュウ藍を、沢山さし木をして、育てておけば、リュウキュウ藍の浸染めが体験出来ます。10株以上に殖やすことが出来れば、体験することが出来ますので、ぜひ挑戦してみてください。